

JA全農 とくしま情報

地域の話題や活動のご報告
今後のお知らせなど
JA全農とくしまと、あなたをつなぐ
コミュニケーション情報誌

2023
9月号
No.767



徳島インディゴソックス「徳島県民応援デー」でスタヂをPR(むつみスタジアム)

マンスリーレポート ————— 2

- ・徳島インディゴソックス「徳島県民応援デー」
- ・JRT四国放送ゴジカル!「笑味ちゃん通信」出演
- ・徳島-札幌線搭乗客におもてなし
- ・阿波踊り客などに徳島県産農産物・加工品をPR
- ・徳島県すだち・ゆこう消費推進協議会が知事表敬訪問
- ・「さめぎの夢応援店」16店舗のうどん店でスタヂをPR
- ・笑味ちゃん親子deクッキングでお米をPR
- ・特別栽培米「乙姫米」の学習会
- ・ドローンを活用した木頭ゆずの黒点病防除試験
- ・JA東とくしまで女性部役員へPR

旬の野菜でおうちごはん ————— 7

- ・蓮根ビザ

浜ちゃん・ちっちゃんのうまいモノ絵日記 ————— 8

- ・その® ～ブドウ～

交通安全のお知らせ ————— 8

- ・秋の全国交通安全運動の実施について

トピックス ————— 9

- ・営農コラム

マンスリーレポート

～すだち大使が観戦客に徳島県産スダチをPR～

徳島インディゴソックス「徳島県民応援デー」

8月20日、徳島県と徳島県すだち・ゆこう消費推進協議会(会長＝坂本雅彦県本部長)の関係者は、徳島市のむつみスタジアム(蔵本公園野球場)で開催された四国アイランドリーグPlus2023後期公式戦「徳島インディゴソックスvs愛媛マンダリンパイレーツ」で、徳島県産のスダチと県産飲料(ザ・キャロット)をPRしました。

県内在住・在学すべての方が無料観戦できる「徳島県民応援デー」と名付けられたこの日、親子連れなど多くの観戦者が訪れるなか、関係者は開場の16時00分から入場ゲートで「徳島県の特産品をご賞味ください」と声をかけながら、先着200人にスダチ3個入り小袋とザ・キャロットを手渡しました。

試合前のセレモニーでは、伊藤大輔徳島県副知事の激励のあいさつの後、すだち大使の中川かりんさんが各チームにスダチ1kgとザ・キャロット2箱を贈呈し、続く始球式ではバッテリーボックスに立つ愛媛マンダリンパイレーツのマスコットキャラクター「マッピー」相手に堂々の投球を披露し、観客の拍手でつつまれました。

5回裏終了後には、すだち大使の中川さんがすだちくんや徳島インディゴソックスのマスコットキャラクター「Mr.インディ」らとともに一塁側ベンチ前に登場し、観客にスダチや県産飲料の特徴やおいしさをPRしました。

なお、試合は6-0で徳島インディゴソックスが完封勝利を収めました。



入場ゲートでスダチとザ・キャロットを配布する
すだち大使の中川さん



両チームにスダチとザ・キャロットを贈呈

～すだち大使が視聴者に徳島県産スダチをPR～

JRT四国放送ゴジカル! 「笑味ちゃん通信」出演

8月2日、徳島県すだち・ゆこう消費推進協議会(会長＝坂本雅彦県本部長)は、JRT四国放送のテレビ番組「ゴジカル!」内の「JA共済 presents 笑味ちゃん通信」(後援＝JAグループ徳島)(月～金曜日午後4時50分～放送)で、徳島県産スダチのPRをおこないました。

このコーナーは徳島県の旬の農産物の魅力を伝えており、ほ場から生産者の声を届けたり、旬の農産物を使用した料理を紹介しています。

この日は、6月から活動を開始したすだち大使の平石静香さんと桧妃菜さんが出演し、すだち大使としての今後の活動予定や意気込み、スダチのおすすめの食べ方などを視聴者にお伝えしました。

同協議会では、今年も香り豊かで爽やかな徳島県産スダチを全国にお届けします。



すだち大使の平石さんと桧さんがハウススダチをPR



番組出演者の皆さん

～すだち大使が阿波おどり空港でスタチをPR！～

徳島-札幌線搭乗客におもてなし

8月1日、徳島県すだち・ゆこう消費推進協議会(会長＝坂本雅彦県本部長)は、阿波踊り空港で開催された「徳島－札幌線就航記念イベント」(主催＝日本航空株式会社徳島支店)で、搭乗客に徳島県産スタチをPRしました。

同空港到着ロビーで、すだち大使の平石静香さんと当県本部園芸部の職員が、札幌から到着したお客様111人に「爽やかな徳島県産スタチをどうぞ!」と元気よく呼びかけ、スタチ3個入りとスタチ飲料をセットで手渡しました。受け取ったお客様は「スタチは知っています。家族みんな大好きなので嬉しいです」と喜んでいました。

ロビーには、すだちくんと松茂町のマスコットキャラクター松茂係長も登場し、お客様を出迎えました。また、松茂町や阿波市、徳島市立高校による物販がおこなわれ、買い物をする人で賑わっていました。



スタチとスタチ飲料のセットを手渡する
すだち大使の平石さん



札幌からの搭乗客を到着ロビーでおもてなし

～スタチの消費宣伝にすだち大使が大活躍！～

阿波踊り客などに徳島県産農産物・加工品をPR

◆佐那河内村の納涼夏まつり

8月13日、名東郡佐那河内村の中央運動公園グラウンドにおいて「第48回ふるさとづくり納涼夏まつり」(同実行委員会主催・佐那河内村教育委員会共催)が開催されました。

来場者抽選会では、品評会(佐那河内農業振興協議会主催)で最優秀賞や優秀賞に輝いた露地スタチやJA徳島市からザすだち(飲料)などがプレゼントされ、すだち大使の桧妃菜さんがプレゼンターとして当選者に手渡しました。

夏まつりは、品評会に出品されたスタチの展示販売や地元の佐那河内すだち連の阿波踊り、ジャアバーボンズライブ、花火大会などたくさんの楽しいプログラムが催され、1,300人を超える来場者で大変盛り上がりしました。

◆両国本町演舞場でスタチ配布

8月14日、台風7号の接近により悪天候のなか、徳島市内の両国本町演舞場で「佐那河内すだち連」が阿波踊りを披露しました。「佐那河内すだち連」の爽やかで息の合った踊りとともに、すだち大使の平石静香さんや当県本部園芸部の職員が、見物客500人へスタチの入った小袋を配布し、徳島のスタチのPRをおこないました。



当選者へ賞品の露地スタチを手渡す
すだち大使の桧さん



すだち大使の平石さんが見物客へスタチを手渡しPR

マンスリーレポート

～「徳島すだち」の新たな化粧箱を紹介～

徳島県すだち・ゆこう消費推進協議会が知事表敬訪問

8月8日、徳島県すだち・ゆこう消費推進協議会(会長＝坂本雅彦県本部長)は県庁を訪問し、後藤田正純知事に協議会の活動報告と新たなデザインとなった「徳島すだち」の統一化粧箱を紹介しました。

県産スダチは今年3月31日、品質や評価などが産地と結びついている産品について農林水産省がその名称を知的財産として保護する「地理的表示(GI)保護制度」で「徳島すだち」として登録されました。

これを受けて新調した1kg化粧箱は、「徳島すだち」の持つ緑色の果皮の美しさや爽やかさを前面に押し出したデザインとなっており、来年4月から全国の市場への出荷時に順次使用していく予定です。

表敬訪問にはすだち大使の平石静香さんと桧妃菜さんも参加し、「徳島すだち」の消費拡大およびブランド強化に向けて、意見交換をおこないました。



協議会の活動を知事へ報告する坂本会長(右から3人目)



表敬訪問を行った関係者

～香川県産青ネギとスダチがコラボ～

「さぬきの夢応援店」16店舗のうどん店でスダチをPR

8月25日～9月3日の10日間、当県本部および徳島県すだち・ゆこう消費推進協議会(会長＝坂本雅彦県本部長)は、JA香川県や香川県内のうどん店と連携した「さぬきの夢(小麦粉)」を使用したうどんと「さぬきの青ねぎ」「阿波のすだち」コラボフェアを開催し、徳島県産スダチの消費拡大をおこないました。

同コラボ企画は、今年で14回目を迎え、オープニングイベントが開催された高松市の「さぬき麺業いしうす庵レインボー店」には、当県本部園芸部の二木伸一部長、すだち大使の平石静香さん、両県の生産者など関係者10人が参加し、「さぬきの青ねぎ」と「阿波のすだち」の贈呈式や記念撮影などが催されました。

期間中、香川県内「さぬきの夢応援店」の認定を受けたうどん店16店舗には各店舗にスダチ5キロを提供し、徳島県産スダチと香川県産青ネギを使った「すだちうどん」などの限定メニューが提供され、ご注文いただいたお客様に数量限定ですだち関連グッズなどがプレゼントされました。



スダチを贈呈するすだち大使の平石さん



オープニングイベントに参加した関係者

～徳島県産食材で親子が調理～

笑味ちゃん親子deクッキングでお米をPR

8月18日、当県本部企画管理課広報室は、JA東とくしまアグリカルチャーセンターで開催された「笑味ちゃん親子deクッキング(主催=JA共済連徳島)」で、参加者にあきさきり2kgをプレゼントし、徳島県産米のPRをおこないました。

徳島県のおいしい農産物の魅力を家族で再発見してもらうことを目的として開催されたこの教室には、抽選で選ばれた17組(40人)の親子が参加しました。

午前の部には親子8組18人が参加し、森本晴香アナウンサーが「今日は親子で楽しみながらお料理を作りましょう」とあいさつをおこなった後、株式会社cotocotoの元木美咲先生の指導で、夏野菜のビビンバ、オクラとベーコンの中華スープ、フレッシュトマトのスムージーを調理しました。

参加した児童は「普段はあまり食べない野菜も地元の食材を使用して自分で作ったのでとても美味しい」「お土産のお米が嬉しい」と元気に応えてくれました。

なお、この日の様子は8月30日、JRT四国放送のテレビ番組「ゴジカル!」(月～金曜日 午後4時50分～放送)のコーナー「JA共済presents 笑味ちゃん通信」で放映されました。



調理を行う親子



参加者へあきさきり2kgをプレゼント



～生協組合員の親子がおにぎり体験～

特別栽培米「乙姫米」の学習会

8月22日、とくしま生協と当県本部は、生協組合員の親子ら約50人参加のもと、板野郡北島町のコープ北島組合員活動室において「お米の学習会」を開催しました。

この取り組みは、特別栽培米「乙姫米(おとひめまい)」を通して、親子で「食」について学んでもらおうと、とくしま生協食育委員会と当県本部米穀総合課が共同で企画したものです。

学習会では米穀総合課職員が、海部郡美波町で栽培されている「乙姫米」の特徴や栽培方法、生産者の苦勞について参加者に説明をおこない、「朝ごはんを食べましょう」と呼びかけました。

続いて、親子はおにぎりや炊き立ての「乙姫米」でいろいろな具材を使用したおにぎらず作りを体験しました。参加した高川原小学校5年生の近藤亨耶くんと6年生の田中徹平くんは「今日は色んなことが学べたので参加して良かった」と楽しそうに話してくれました。

※特別栽培米徳島県産コシヒカリ「乙姫米」は、平成元年(1989年)から美波町の赤松地区で「有機米づくりの里」をキャッチフレーズに環境保全型農業を取り入れた栽培方法により生産されています。

名前の「乙姫」は、この地域が平成の町村合併前に「ウミガメ産卵の地」で有名な日和佐町に属していたことから「童話 浦島太郎に出てくる乙姫様」に由来します。



「乙姫米」の特徴などを説明する米穀総合課職員



おにぎらず作りを体験する児童



マンスリーレポート

～労力負担の軽減で持続可能な果樹生産へ～

ドローンを活用した木頭ゆずの黒点病防除試験

8月22日、JAアグリあなは、徳島県南部総合県民局、那賀町役場、当県本部協力のもと、那賀町木頭のゆず生産園地で「ドローンを活用した木頭ゆずの黒点病防除試験」を実施し、関係者など約20人が参加しました。

県内有数のゆず産地である那賀町では、特産の「木頭ゆず」の生産振興に取り組んでおり、栽培管理の中で労力負担の大きい農薬散布作業の省力化をはかることを目的に、ドローンを活用した黒点病防除試験を6月から計3回実施しています。

はじめにこの日の実証散布試験にあたり、当県本部園芸資材課の阿部靖職員から、今までの試験結果について「葉裏への散布ムラは見られるものの葉表面への付着は確認できており、現状においては『黒点病』の発生や拡大がないことから、山間地域での黒点病防除にはドローン散布効果が期待できる」との報告がありました。

4回目となったこの日は、ゆず園地(約20アール・約170本)での農薬散布は、ドローン2機が3メートル上空から農薬散布をおこない、手作業では約1時間半かかるところ、約20分で散布が終了しました。

農薬散布作業は黒点病防除も含めると、年に10回から15回おこない、人手不足が進むなか、生産者の高齢化で夏場の農薬散布は最も負担がかかる作業となっています。

実証散布をおこなった園地の生産者早川幸男さんは「高齢になり作業が大変なので負担軽減になればありがたい」と話しました。

徳島県南部総合県民局の清水昇課長補佐は「生産者の高齢化が進むなかで、この技術の導入により農家の省力化がはかれることで今後も高品質な木頭ゆずの生産を維持していきたい」とこの取り組みに期待を寄せていました。



これまでの試験結果の報告を行う園芸資材課の阿部職員



ドローンによる農薬散布を見守る関係者

～「エコープマーク商品」を紹介～

JA東とくしまで女性部役員へPR

8月3日、くらし支援部中四国エネルギー生活事業所徳島生活推進課は、JA東とくしまアグリカルチャーセンターで開催されたJA東とくしま女性部役員会で、生活事業関連商品の紹介と利用拡大PRをおこないました。

女性部役員11人と同JA職員5人が出席し、各社(厚生産業株式会社、岐阜アグリフーズ株式会社、大島食品工業株式会社)担当者から商品説明を受けたり、実際に試食をおこないながら風味や食味を確かめていました。あわせて説明のあったスキンケア商品についても使用方法を確認しながら試用していました。

徳島生活推進課では、今後もこうした活動により、取扱い商品の認知度を高めるとともに商品の普及・利用拡大に努めてまいります。



なす漬の素などの商品説明を行う担当者



スキンケア商品の説明を受ける女性部役員の皆さん



蓮根ピザ



▼材料(2人分)

蓮根……………200g
 トマト(小)……………1個
 ピーマン……………1個
 ベーコン……………50g
 ピザ用チーズ……………適量

A トマトケチャップ……………大2
 塩、こしょう……………各少々

▼作り方



① 蓮根は皮を剥き
 スライサーで薄切りにし、
 酢水に浸す。



② フライパンに油を熱し、
 ①の水気を取って
 重ねる様に並べる。



③ 全体に焼色が付いたら
 Aを塗る。

④ 上に食べやすい大きさに
 切ったトマト、ベーコン、
 ピーマン、チーズの順にのせ、
 蓋をして中火で5分程焼く。

POINT

蓮根は重ねながら並べ
 ると、食べる際に切り
 やすい。



料理研究家 HITOMI <http://www.hitomi-cook.com>

◎免許：調理師免許、食空間テーブルコーディネーター2級、JA全農とくしま園芸部 クッキングアドバイザー
 ◎賞：2014年NHK社会貢献賞授与 ◎活動歴：TV=NHK徳島放送局料理コーナーレギュラー出演／ラ
 ジオ=TBS「伊集院光とラジオと」に毎月レシピ提供 ◎JA全農とくしまとのコラボイベント：大阪ガスハ
 ムミュージアムにて鰻を使った爽やか料理講習会／大阪中央卸市場にて徳島県の食材を使った料理講習
 会 ◎カルチャー講師：兵庫イオンカルチャー(姫路、加古川、明石の3店舗)講師／神戸市立長田区勤労
 センター、神戸市立西區民センター講師 ◎店舗用レシピ開発、商工会での商品開発など

うまいモノ絵日記



文：濱堀秀規 イラスト：ちっちゃん

その160 ～ブドウ～

◆ブドウにまつわる2つの物語◆

酸っぱいブドウの話と、ブドウ畑の宝物の話である。

イソップ物語だったと記憶するが、ブドウにまつわる2つの童話を思い出す。ひとつはキツネが自分が取れなかったぶどうを「どうせ酸っぱくて美味しくないに決まっている」と自己正当化した物語である。もうひとつは、父の遺言で、残したブドウ畑には宝物が隠してあると教えられたため、子供達が畑を耕し続けて、お宝はなかったが、豊作になったブドウが本当のお宝であり、幸せになった話の2つである。

◆心理学のテストにでてくる、自己正当化の話は今でも有名である◆

ちまたには、どうせ私には無理だからとか、どうせ〇〇だからできないなど、たくさんの言い分けを起こすのか、コツコツ努力し頑張って働けば、幸せがやってくるんだと信じてやり続けるのか、という2つの教訓は、今でも考えさせられる内容である。

◆高齢者でも元気な農家たち◆

農家を巡回していると、80歳過ぎてても90歳を過ぎてても元気なおじいちゃんやおばあちゃんたちとお話をするところがある。足腰も丈夫で、耳は少し遠いが、頭はボケていなくて元気である。先日89歳のおじいちゃんが軽自動車を持

分で運転し、撒き遅れたスイートコーンをJAに持ち込み、診断や今後のアドバイスが欲しいとの要望があった。

元気で長生きの秘訣はなんだろうか。遺伝か？規則正しい生活サイクルか？ストレスのない農作業での生活か？答えは見つからないが、おじいちゃんもおばあちゃんも皆さん総じてびっくりするほどお元気である。

◆ぶどう饅頭と果物の葡萄◆

徳島県美馬市のJR穴吹駅前に本社がある日之出本店の、有名なぶどう饅頭は、形が葡萄の実をまねているように見えるので葡萄まんじゅうだと思っていたが、どうやら違うらしい。剣道が盛んな中山間地域のお土産に考案した武道饅頭だったとのこと。

そう言えば、鳴門の近所のスーパーでも、個包装された「ぶどう饅頭」が販売されていた。久しぶりに、ぶどう饅頭に入っている1億円札を拝むために、ぶどう饅頭を買いに行きたくなった。そして、旬の果物のブドウも買ってこよう。



交通安全のお知らせ

秋の全国交通安全運動の実施について

1 実施期間

令和5年9月21日(木)から30日(土)まで
交通事故死ゼロを目指す日 9月30日(土)

2 目的

広く県民に交通安全思想の普及・浸透を図り、交通ルールの遵守と正しい交通マナーの実践を習慣付けるとともに、県民自身による道路交通環境の改善に向けた取組を推進することにより、交通事故防止の徹底を図ることを目的とします。

3 運動重点

◇子どもと高齢者を始めとする歩行者の安全の確保

車は、進路の前方の横断歩道を横断し、または横断しようとする歩行者がいるときは、その横断歩道の直前で一時停止し、歩行者の通行を妨げないようにしなければなりません。横断歩道等における歩行者保護の徹底をお願いします。思いやりの気持ちを持って運転しましょう。

歩行者の方は、道路を横断する際、近くに横断歩道がある場合に

は、必ず横断歩道を渡りましょう。

また、横断する際は手を挙げて、運転者に対して横断する意思表示をし、左右の安全を確認してから渡り始めてください。

◇夕暮れ時と夜間の交通事故防止及び飲酒運転等の根絶

薄暮時間帯は交通事故が急増します。早めのライト点灯やハイビームを活用し、交通事故を防ぎましょう。夜間に散歩等で外出する際は、明るい服装で、反射材用品を身につけましょう。

◇自転車等のヘルメット着用と交通ルール遵守の徹底

自転車や特定小型原動機付自転車(いわゆる電動キックボード等)に乗る際は、乗車用ヘルメットの着用が努力義務とされています。交通事故による被害を軽減するためには、頭部を守ることが重要なので、乗車用ヘルメットを着用しましょう。

また、車道通行の原則、一時停止すべきとされている場所では一時停止をする、といった基本的な交通ルールを守り、安全に自転車等を利用しましょう。

徳島県警察本部 交通企画課



営農コラム

JA職員駐在による組織枠組を超えたTAC推進活動 営農支援課 技術主管 吉永 博明

現在、JAと連携し具体策を実行するなかで経済事業の維持・発展に貢献するとともに、組合員へのサービス向上に寄与することを目的に「出向く体制」を構築し、JA・全農の枠を超えた取り組みをおこなっています。

内容としては、出向く体制の確保と強化、出向く人員のスキルアップ、生産者個々の分析などをおこない、JA職員との同行推進により、幅広い分野で生産者個々の課題を抽出し、さまざまなツール(Z-GIS・Z-BMF等)を使用し、解決に取り組んでいます。また、専門的な研修・視察を行い、JA職員の見識・知識の向上を図り、今後のJAの中核を担う人材育成を目指しています。

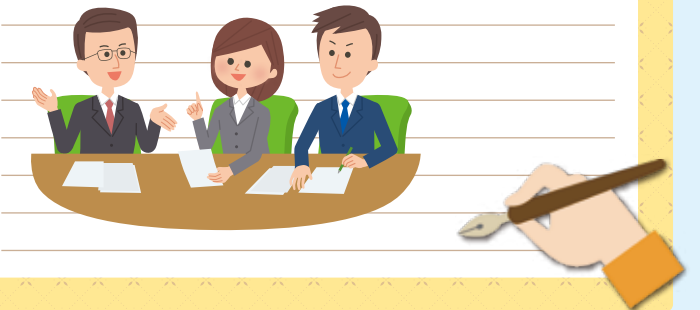
令和5年度は取り組みの2年目であり、県内より2JA(徳島市農業協同組合・板野郡農業協同組合)の協力のもと、日々取り組みをおこなっています。ここ数年、コロナ禍の行動制限により、訪問や会議などが自粛されたため、訪問時には生産者からさまざまな意見・課題などをいただいています。このような現状を見るに、やはり生

産者との繋がり的重要性を再認識しています。

今後は、さまざまな課題に対応すべく、より高度な人材育成と課題解決能力を持って取り組み、JAグループとして「出向く体制」を強化してまいります。

ii!! TAC Tとことん、A会って、Cコミュニケーション!!

『担い手を訪問して聴き取った情報をもとに、担い手農家の視点に立った事業提案をおこなうことにより、担い手が成果を得られた結果、JAグループとの信頼関係が結ばれるとともに、JAの事業にも結びつけていくこと』です。



広報室

～「阿波そだち」の新米を味わって～

児童養護施設に徳島県産の新米を贈る

8月24日、当県本部とJA徳島農政協議会(会長＝中西庄次郎・徳島県農業協同組合中央会会長)は、県内7ヵ所の児童養護施設の子どもたちに美味しい新米を食べてもらおうと、令和5年産の徳島県産米「阿波そだちコシヒカリ」500kgと、あわせて徳島県産スダチ飲料「ザすだち」14ケース(420本)を贈りました。

この贈呈は、子どもたちの健やかな成長を願い、社会福祉活動の一環として昭和60年(1985年)から毎年実施しているもので、今回で39回目になります。

徳島県JA会館の会議室でおこなわれた贈呈式には、児童養護施設の代表者ら関係者15人が出席しました。当県本部の坂本雅彦県本部長が「この夏は過去に例がないほどの猛暑のなか農家の方々には大変なご苦労もありましたが、新米のコシヒカリを無事収穫することができました。子ども

たちにはお米の美味しさを十分味わってもらい、農家の方々の苦労や農業の大切さを知り、心身ともに健やかで立派な社会人に成長されることを願っております」とあいさつし、各施設を代表して宝田寮の八木宏明寮長に新米を手渡しました。

これに対して、八木寮長より「このような温かいご支援をいただき、子どもたちと施設にとって大変ありがたく、深く感謝しております。ご寄贈いただいた新米と飲料は皆様からの温かい気持ちがたくさん詰まったものとして、美味しく大切に味わいたいと思います」とお礼の言葉をいただきました。



宝田寮の八木寮長(左)へ新米を贈る坂本県本部長

～野菜1日5皿運動、目標量は1日350g!～

「野菜の日」街頭啓発活動

8月31日は「野菜の日」。これは、野菜の良さを見直してもらうため、「や(8)さ(3)い(1)」の語呂合わせから、全国青果物商業協同組合連合会など9団体が昭和58年(1983年)に定めた記念日です。

当県本部は「野菜の日」に先がけ8月26日、徳島県、県歯科医師会、県食生活改善推進協議会、県調理師会、徳島文理大学、JA徳島女性組織協議会などの県内団体と、徳島県のマスコットキャラクターすだちくんと共に、板野郡北島町のショッピングモール「フジグラン北島」の来客者に対し、野菜の積極的な摂取と徳島県産野菜の消費拡大を呼びかける啓発活動をおこないました。

徳島県では、野菜の1日の目標摂取量350gの達成をめざし、平成24年度から県独自に8月31日の「野菜の日」を含む1週間を「とくしま野菜週間」として制定し、集中的に普及啓発をおこなっています。

この日は、各団体からの参加者約20人とすだちくんが、「野菜料理1日5皿」などと書かれた緑や黄色のタスキを掛け、「8月31日は野菜の日です。野菜を

たくさん食べてください!」と野菜の摂取を呼びかけ、野菜摂取量アップに関する当県本部パンフレットや料理レシピ、うちわなどの啓発グッズが入った手提げ袋400セットを買い物客に配布しました。

また8月31日には、当県本部は野菜摂取や国産野菜の消費拡大を目的に、職員にキャベツ、レタス、スタチ、カンショ、タマネギ、ジャガイモなどの野菜を配布しました。職員らはそれぞれ持ち帰り、自宅で美味しくいただきました。



買い物客へ
啓発グッズを
配布する関係者



JAタウン「新鮮大好き徳島」今月のおすすめ

JAタウン「新鮮大好き徳島」では、令和5年産の新米の販売を開始しました。安全・安心のブランド、徳島米をよろしくお願いします。



徳島県産
コシヒカリ
(5kg)



無洗米・
徳島県産
コシヒカリ
(5kg)



徳島県産
あきさかり
(5kg)



無洗米・
徳島県産
あきさかり
(5kg)



JAタウン「新鮮大好き徳島」

<https://www.ja-town.com/shop/c/c7001/>

新鮮大好き徳島

検索



徳島県本部人事異動

令和5年9月1日付

氏 名	コース	職能資格	新 職 務 ・ 職 制	旧職能資格	旧 職 務 ・ 職 制
佐藤 泰弘	総合職 (徳島)	調査役	園芸部 園芸総合対策課	調査役	管理部 企画管理課

私たちは笑顔で食べているのに
農家さんが泣いていたら、
いやだなあ。

毎日食べている新鮮でおいしい食べもの。
世の中のあらゆるものが値上がりしている中、
農畜産物がそこまで値上がりしていなかったのは、
農家さんが我慢しているから、だったのですね。
私たちが食べて笑顔になるだけでなく、
それを届けてくれる農家さんも笑顔でいてほしい。
安全・安心でおいしいものをつくり続けてもらうために
私たちができることは、
国産のものを選ぶことくらいかもしれないけれど、
これからも変わらず、おいしくたくさん食べることで
農家さんを応援したい。
それが、子どもたちの未来に国産の食べものをつなぐことになる。
そう信じています。

国産を
食べるよろこびを
これからも。



詳しくは当サイトをご覧ください
<http://www.san-ei.co.jp/kakemon/>

全農

全農 SHIMA×SHIMA コラボ
福島県×徳島県

おらが自慢の新米プレゼント!

- 全農福島からは『天のつぶ 2kg』を10名様
 - 全農とくしまからは『あきさかり 2kg』を10名様
- 合計20名様に自慢のお米をプレゼントいたします。

大粒でふっくらと
した炊き上がと、
粘り気の少ない
クリアな
味わいです



モチモチとした
粘りと程よい
甘み特徴。

応募方法

- ①全農福島公式Twitterアカウントのフォロー&キャンペーンツイートのリツイート
または
- ②全農とくしま公式Instagramアカウントフォロー&キャンペーン投稿に、いいね!
のどちらかで応募完了です!

JA全農福島



JA全農とくしま



注1) 当選者の方には後日DMにて
ご連絡いたします。
注2) お米の指定はできません。

キャンペーン期間
令和5年9月15日～
9月30日23時59分



JAタウン
「新鮮大好き徳島」



JA全農とくしま
YouTubeチャンネル



JA全農とくしま
Instagram



JA全農とくしま
クックパッド



JA全農とくしま
ホームページ

全農グループ経営理念

私たち全農グループは、**生産者と消費者を
安心して結ぶ懸け橋** になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

全農

JA全農とくしま

<https://www.zennoh.or.jp/tm/>



「JA全農とくしま情報」に 関するお問い合わせ先

本紙「JA全農とくしま情報」の購読料・配送料は
無料です。送付先の氏名・住所変更や、
送付の停止につきましては、
JA全農とくしま企画管理課広報室
(電話 088-634-2462)
までご連絡ください。

